



建交労



2018 年 6 月 24 日

建交労神奈川県南支部

2018 年夏季闘争

推進ニュース③②通算 71

発行責任者 佐藤 章

安倍政権の暴走をもうこれ以上は許さない 初参加者も含め川崎駅前での宣伝行動実施！

神奈川県南支部による 6 月の J R 川崎駅前での宣伝・署名行動は 23 日(土)に行いました。今回は支部執行委員に加えて中日臨海バス分会の河原田書記長が初めて行動に参加し 10 人での行動になりました。執行部ではこれが他の分会にも刺激となって支部執行委員以外の参加者が増えていくことを期待しています。なお、この日集約した署名は 9 条改憲 NO ! 1 筆、核兵器廃絶を求める国際署名は 2 筆と低調でした。



次回の定例宣伝・署名行動は 7 月 14 日(土)午前 10 時 30 分頃から J R 川崎駅前で行いますので各分会からの積極的な参加をお願いします。

写真は宣伝・署名行動に参加した県南支部の仲間

辺野古新基地建設反対！沖縄の仲間に連帯しよう！

6 月 23 日は、73 年前の太平洋戦争末期に、当時の日本政府・軍部の戦略によって県民が壊滅的な犠牲を強いられた沖縄戦が終結した日で、戦没者を追悼する慰霊の日式典が毎年行われています。今年の式典で中学 3 年生の相良倫子さんが平和への強い思いを込めて朗読した自作の詩を別紙に紹介しました。辺野古新基地建設反対をはじめ沖縄の仲間のたたかいに一層の連帯を強めましょう。式典に出席した安部首相は記者会見を行い、米朝首脳会談によって対話による平和への道が開かれつつあるなかで辺野古新基地建設の強行を明言し沖縄県民の感情を逆撫でして平然としていました。

味の素物流班の畠野由美子さんを 運転手に復職させる署名を推進しよう！

神奈川県南支部では 6 月 7 日にスタートした味の素物流班の畠野由美子さんを運転手に復職させる署名の集約がすすめられています。今後は全国の建交労や地域の仲間からの集約もはじまります。多くの仲間の支援に応えるためにも味の素物流班を先頭に全分会での集約を加速させましょう。

味の素株式会社
代表取締役・取締役社長・最高経営責任者
西井 孝明 様

味の素物流株式会社
代表取締役社長
田中 宏幸 様

2018年 月 日

畠野由美子さんの運転手への復職を求める署名

味の素物流株式会社（前関東エース物流(株)）のトラック運転手として約7年間勤務してきた畠野由美子さんは、事故を起こしたことを理由に昨年（2017年）12月に運転手の仕事を降ろされ、それまでまったく経験のない事務職に移されました。

その結果、畠野さんの月額収入は約6万円も減少して生活が困窮しているとともに、元々はトラック運転手を希望して採用された畠野さんが、慣れない事務職を約半年間も続けるなかでストレスが溜まり精神的にも追い詰められてきています。畠野さんは、こうした状況から開放されるために一日も早く運転業務に戻りたいと願っています。

会社が畠野さんをトラック運転手から下ろした理由とする「油漏れ事故」の背景には、昼食休憩も取れない過酷な業務を強いられたことによる可能性が高く、また、帰宅途中の交通事故は畠野さんの不注意が原因とは言え、法的な処罰もなく会社に損害はありませんでした。

それまでの畠野さんは、関東エースのトラック運転手として何ら問題もなく業務を遂行してきた真面目な従業員であり、今後もトラック運転手として会社に貢献できる人材です。

私たちは、その畠野さんを一日も早くトラック運転手に復職させることを強く求めます。

わたくしは上記の目的に賛同して署名します。

氏 名	住 所	サイン

取り扱い団体

全日本建設交運一般労働組合（建交労） 神奈川県南支部
〒169-0073 川崎市川崎区砂子2-8-1 シャンボール川崎砂子 706 号

※この署名は、この目的以外では使用いたしません。



沖縄全戦没者追悼式で自作の詩「生きる」を朗読する浦添市立港川中学校3年生の相良倫子さん（14）

写真は時事通信より

私は、生きている。

マントルの熱を伝える大地を踏みしめ、
心地よい湿気を孕んだ風を全身に受け、
草の匂いを鼻孔に感じ、
遠くから聞こえてくる潮騒に耳を傾けて。

私は今、生きている。

私の生きるこの島は、
何と美しい島だろう。

青く輝く海、

岩に打ち寄せしづきを上げて光る波、

山羊の嘶き、

小川のせせらぎ、

畑に続く小道、

萌え出づる山の緑、

優しい三線の響き、

照りつける太陽の光。

私はなんと美しい島に、
生まれ育ったのだろう。

ありったけの私の感覚器で、感受性で、
島を感じる。心がじわりと熱くなる。

私はこの瞬間を、生きている。

この瞬間の素晴らしさが

この瞬間の愛おしさが
今と言う安らぎとなり

私の中に広がりゆく。

たまらなく込み上げるこの気持ちを
どう表現しよう。

大切な今よ

かけがえのない今よ

私の生きる、この今よ。

七十三年前、

私の愛する島が、死の島と化したあの日。

小鳥のさえずりは、恐怖の悲鳴と変わった。

優しく響く三線は、爆撃の轟に消えた。

青く広がる大空は 鉄の雨に見えなくなった 草の
匂いは死臭で濁り、

光り輝いていた海の水面は、

戦艦で埋め尽くされた。

火炎放射器から吹き出す炎、幼子の泣き声、
燃えつくされた民家、火薬の匂い。

着弾に揺れる大地。血に染まった海。

魑魅魍魎の如く、姿を変えた人々。

阿鼻叫喚の壮絶な戦いの記憶。

みんな、生きていたのだ。

私と何も変わらない、

懸命に生きる命だったのだ。

彼らの人生を、それぞれの未来を。

疑うことなく、思い描いていたんだ。

家族がいて、仲間がいて、恋人がいた。

仕事があった。生きがいがあった。

日々の小さな幸せを喜んだ。手をとり合って生きてきた、私と同じ、人間だった。

それなのに。

壊されて、奪われた。

生きた時代が違う。ただ、それだけで。

無辜の命を。あたり前に生きていた、あの日々を。

摩文仁の丘。眼下に広がる穏やかな海。

悲しくて、忘れることのできない、この島の全て。

私は手を強く握り、誓う。

奪われた命に想いを馳せて、

心から、誓う。

私が生きている限り、

こんなにもたくさんの方の命を犠牲にした戦争を絶対に許さないことを。

もう二度と過去を未来にしないこと。

全ての人間が、国境を越え、人種を越え、

宗教を越え、あらゆる利害を越えて、平和である世界を目指すこと。

生きる事、命を大切にできることを、

誰からも侵されない世界を創ること。

平和を創造する努力を、厭わないことを。

あなたも、感じるだろう。

この島の美しさを。

あなたも、知っているだろう。

この島の悲しみを。そして、あなたも、

私と同じこの瞬間(とき)を

一緒に生きているのだ。

今と一緒に、生きているのだ。

だから、きっとわかるはずなんだ。

戦争の無意味さを。本当の平和を。

頭じゃなくて、その心で。

戦力という愚かな力を持つことで、

得られる平和など、本当は無いことを。

平和とは、あたり前に生きること。

その命を精一杯輝かせて生きることだということを。

私は、今を生きている。

みんなと一緒に。

そして、これからも生きていく。

一日一日を大切に。

平和を想って。平和を祈って。

なぜなら、未来は、

この瞬間の延長線上にあるからだ。つまり、未来は、今なんだ。

大好きな、私の島。

誇り高き、みんなの島。

そして、この島に生きる、すべての命。

私と共に今を生きる、私の友。私の家族。

これから、共に生きてゆこう。

この青に囲まれた美しい故郷から。

真の平和を発進しよう。

一人一人が立ち上がって、

みんなが未来を歩んでいこう。

摩文仁の丘の風に吹かれ、

私の命が鳴っている。

過去と現在、未来の共鳴。

鎮魂歌よ届け。悲しみの過去に。

命よ響け。生きゆく未来に。

私は今を、生きていく。